

神奈川県立平塚江南高等学校における学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を次のとおり開催した

審議会名称	神奈川県立平塚江南高等学校 令和5年度 第3回学校運営協議会
開催日時	令和6年3月9日(土)
開催場所	神奈川県立平塚江南高等学校 会議室
[役職名] 出席者	[委員] 穴戸 章子(会長、神奈川工科大学) 山崎 幸子(平塚江陽中学校校長) 鈴木 奏到(同窓会) 松本 智美(保護者) 小林 豪(平塚市災害対策課) 井野 雄二(平塚江南高等学校長) [事務局] 矢野 悟(副校長)、本城 純美(教頭)、桜井かおり(事務長)、 植田 渥士(総括教諭)、辻 祐哉(本校教諭)、島川 淳(総括教諭) 森原 香織(本校教諭)、三笠 裕史(総括教諭)
欠席者	[委員] 新田 圭子(第一三共株式会社) 奥谷 和義(諏訪町自治会副会長)

開会

1 校長あいさつ

入試日程、卒業式を無事に終えたところである。国公立大学の入試結果が届き始めており卒業生は新たなステージに向けて準備を始めている様子である。

中庭の整備事業がほぼ終わり、新通用門(富士見門)が1週間後には供用開始の予定で、支援をいただいたPTA、同窓会には感謝している。

2 協議会の運営について

[井野校長]

本来、第1回運営協議会において選出すべきであったところ、選出を行わないまま、第3回を迎えてしまっている。本日、改めて会長の選出を行うにあたり、学識経験者としてメンバーに入っていていただき、かつ、県立高校で校長としての勤務経験もお持ちである穴戸委員に会長をお願いしたい。

(全委員承認)

[穴戸会長]

承知いたしました。サポート役として、井野校長に副会長をお願いしたい。

(全委員承認)

[井野校長]

承知いたしました。

なお、各部会の部会長・副部会長については、本来は互選により決定されるものだが、今年度については、本日が最終の3回目であるため、お手元の組織図にお名前の記されている順に、部

会長、副会長とさせていただく形でよろしいか。

キャリア部会は鈴木委員が会長、新田委員が副会長、授業改善部会は、ただ今穴戸委員が会長となられたので、山崎委員が会長、穴戸委員が副会長、防災管理部会は奥谷委員が会長、小林委員が副会長としてこの後の部会に臨んでいただきたい。

(全委員承認)

繰り返しとなるが、本来、第1回で決めるべきものを年度末での決定となってしまったこと、お詫び申し上げます。

### 3 各部会協議(今年度の振り返り)

[事務局から]

お手元の資料「学校評価報告書」における1年間の目標、取組の内容に関しての評価、また来年度に向けて忌憚のないご意見をいただきたい。

#### 【授業改善部会】

- SSH 第Ⅱ期の申請となったのは努力の賜物
- 結果よりも過程で職員が団結したのが素晴らしい
- 日々の授業で「授業が楽しい」と思うことができることが大切(学校だからできる対話・ディスカッション・対話)
- 早めの宣伝・アピール、やっていること・今あるものを伝えてほしい

#### 【キャリア部会】

[委員より]

- 1年間の目標「高い志を葆ち、難関国公立大学への合格者10名」に関して、生徒たちの実態として意欲やモチベーションを育てる手立てになっているか。
- 生徒の大学・学部・学科研究に関して、生徒が知っている名前の大学だけでなく、興味や関心を持って視野を広げていけるような指導を期待する。
- 偏差値だけにこだわることなく、広く社会で活躍できるリーダーを育てる学校になってもらいたい。
- キャリア部会長として、大学・民間・公的機関で各分野で活躍されているOBの見識を生徒や保護者へ提供できるよう学校とのパイプ役を次年度以降担っていききたい。

[事務局(教員)]

- 1学年から順次指導してきているが、今後も高い目標を持つことで選択肢を広げていけるよう指導していききたい。

## 【防災管理部会】

### [委員より]

- 防災教育（訓練）に関して、平塚市や地域自治会と連携して実施できていたと評価できる。
- 能登半島地震に平塚市職員が支援で現地に入り、来年度はそういった職員の知見を教員、生徒に還元できると考えているので、活用していただきたい。
- 近隣自治会（富士見地区）は防災訓練を大規模にやっているのでは、生徒が参加することもできると考える。
- 防災関係ではないが、市内で開催されている町を元気づけるプロジェクトなどに生徒が参加することができるのでは良いのではないかと。

## 4 全体会(学校評価部会)

### <各部会より報告>

(上記各部会協議内容参照)

### <学校評価について>

#### [事務局から]

ここで、学校評価について各部会で触れられなかった事項やその他についてのご意見をいただきたい。

#### [穴戸会長]

- 生徒指導上の問題が起きてしまうのは仕方ない。大切なことはその後の責任ある行動であり、その点をしっかり指導していただきたい。
- 「魅力と特色づくりについてのアンケート」で充実した教科外活動ができたとする回答が93%という結果は大いに評価できる。

#### [鈴木委員]

- 地域との協働に関して平塚青年会議所のキャッチフレーズは「チャレンジ」であり、中高生と一緒に考えていきたい。若い人が前面に出てくるようにしたいと考えているので、活用してほしい。
- 平塚江南高校に入ると世の中との接点が多い、と小中学生に伝わるようなアピールが必要。

#### [山崎委員]

- 部会でもお話したが、今取り組んでいること、やっていること、今あるものを早めに宣伝・アピールが必要。

#### [小林委員]

- 部会でもお話したが、今年は能登半島地震の行政支援に市役所職員が交代で赴いている。報道だけでは感じ取れない様々な情報や、災害時の避難所になる学校がどんな状態になっているかなど、現場の経験をお伝えすることもできると思うので活用してほしい。

[副校長]

○貴重なご意見ありがたい。ここでお話いただいたことを中心に学校評価についてもまとめていきたい。

## 5 学校教育計画について

[副校長]

○（資料）令和6～9年度学校教育計画（案）について、ご意見をいただきたい。

[委員]

文言の修正について

- ・深い知識 — 深い学び、としたほうが良いのではないか。知識は調べれば得られる、今はこれをどう活用するかが問われると思う。
- ・健やかな身体を持ち — 「もち」とするのが適当と思う。身体に障がいをもつ子どもへの配慮が必要であろう。
- ・社会をけん引し — けん引する前に「挑戦」を経験することが事前に必要ではないか。
- ・いのちを尊重する自己理解 — いのちを尊重しない自己理解はないと考える。表現を変えたほうが良い。

[副校長]

○貴重なご意見ありがたい。さらに検討を続けたい。

## 6 来年度の予定確認

[事務局より]

○来年度も委員をお引き受けいただけるようお願いしたい。また、来年度も今年度と同様の開催をお願いしたい。

閉会